

わが町
わが村



益城町の工業発展の拠点。熊本総合団地。

上益城郡益城町

伝統を大切に未来ある町づくり

益城町の産業

主幹産業は農業で、東部山間地帯はぶどう・柑橘類を主に栽培し、平坦地帯では米中心で、施設園芸においてはスイカ・メロン等を栽培しかなりの出荷量になっている。また、工業の発達も著しく、大型農機井関工場の進出、昭和五十五年には、熊本総合団地（熊本総合工業団地、熊本産業団地、熊本綿寝装協同組合、熊本輸送団地）が操業を開始し、益城町における工業成長の最大拠点となっている。従来の県道熊本高森線に加え、県庁から空港を通り大津を結ぶ県道熊本益城大津線（幅員二十二メートル）が現在急ピッチで工事が進められており、これが完成した暁には、空港幹線道路として更には、生産物の輸送時間の短縮、輸

送量増大など今後の益城町産業の発展が大きく期待されるところである。



県下でも数少ない社会福祉スポーツ大会（健常者と身障者）は、益城町の恒例行事となっている。

益城町の史跡

本町は熊本盆地の東端に位置し、耳目を驚かす遺跡等は特にないが、有史以前から豊かで住み易い所とみえ、九千年前の縄文遺跡や弥生時代、古墳時代と遺跡が発見されている。先日も五世紀の石棺が発見され、銅鏡や勾玉（マガタマ）が発見された。特に勾玉は左手首に巻かれており、珍しい発見例とされる。また条里制跡も遺跡や地名がらいくつも確認され、当時から豊



益城町から15分の距離に位置する熊本空港。今や益城町の玄関口となっている。



改築された徳富蘇峰生誕の家記念館。

饒（ほうじょう）な米の産地として、重視されたと思われる。飯田山には常楽寺、朝来山には福田寺跡が山岳宗教のメッカとして残り、今後の説明がまたれる。降って中世の木山氏、光永氏の城跡が残り、江戸期の砥川疎水に尽力した富田茂七翁の業績がある。明治維新期の実学党の矢島直方、女子教育と女性解放に名を馳せた矢島姉妹は本町出身で、文豪徳富兄弟の母の兄妹である。木山川畔にはその姉妹を讃える四賢婦人の碑が建つ。本町には、徳富蘇峰生誕の家記念館があるが、矢島家顕彰の記念館としての内容充実を目指している。

益城町の伝統芸能

● 砥川獅子舞い
今から、三百年前に阿蘇神社から六嘉（嘉島町）を経て砥川神社に伝わり、五穀豊稔を祈願して奉納したのが始まりである。
この獅子舞いは毎年十月十七日に行われ、「楼門」「出羽」「獅子つり」「花棒」雌雄の獅子が愛を語り合う「催合獅子（もやいじし）」の五場面から成っており、最後の「催合獅子」では、頭上から花火の火の粉を流のように浴びせて舞い、全国的にも珍しい獅子舞いである。

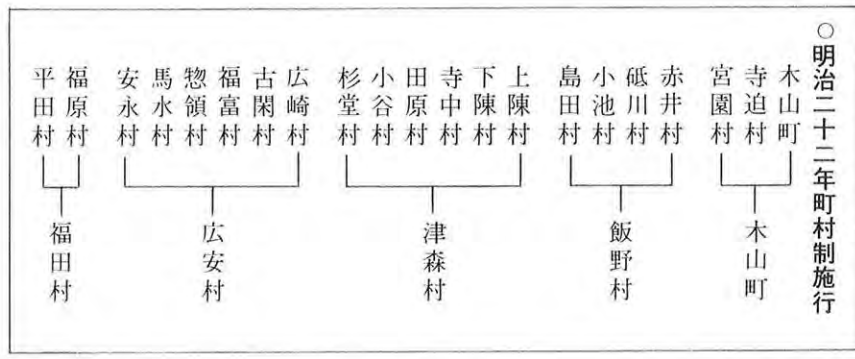


役場屋上から見た住宅密集地。熊本市に隣接し、前方には金峰山が見える。

お星祭り

この祭りは、益城町（五部落）、西原村（三部落、菊陽町（四部落）の十二部落が一年ずつ輪番制で預かり、次に回ってくるのは十二年後というもの。

重さ六百キログラムの御輿（みこし）を力一杯地面に投げ飛ばし、青竹で叩いて（中にある女の神様を戒めるためと言い伝えがある）一年間の農作物の豊作を祈願する勇ましい祭りである。



人口および世帯数の推移

調査年月日	総数	男	女	世帯数
昭30.10.1	21,119	10,209	10,910	3,862
昭40.10.1	18,757	8,868	9,889	3,933
昭50.10.1	21,031	9,950	11,081	5,086
昭55.10.1	24,269	11,486	12,783	6,354
昭58.1.1 現在	25,500	12,242	13,258	6,689



地目別面積

地目	総面積	田	畑	宅地	山林	原野	池沼	雑種地	その他
53	6,564	1,276	1,797	431	1,198	276	13	74	1,499
54	6,564	1,246	1,754	439	1,219	279	13	68	1,546
55	6,564	1,241	1,746	447	1,218	278	13	68	1,553
56	6,564	1,238	1,735	460	1,219	278	13	68	1,553
57	6,564	1,297	1,664	463	1,219	278	15	68	1,560